

滋賀県立

聴覚障害者センター

だより



—113号—

発行日/令和6年4月10日
発行所/草津市大路2丁目11-33
TEL 077-561-6111
FAX 077-565-6101
HP <https://shigajou.or.jp>

新年度挨拶

滋賀県立聴覚障害者センター

所長 中西 久美子



桜が満開の季節となり、新年度がスタートしました。

前年度はご利用

者様ならびに利用団体様の心温まるご協力とご支援を賜り当センターも大過なく過ごす事ができました。皆様には改めて心より感謝申し上げます。

4月は、真新しい制服やスーツを身に着けた初々しい人たちに会う季節です。新型コロナウイルスの感染拡大からあつという間に3年以上が経過しましたが、人々の生活や働き方はコロナと共存する形へと変わってきており、新しい社会への動きが急速化しています。

さて、私が当センター長に着任してから3年が経過しました。厳しい新年度を迎えるにあたって、組織の「生き残り」と「発展」の両立を目指してまいります。

先ず、組織の「生き残り」に関してですが、ICTの導入など目覚ましい進歩を遂げています。ICTの進歩をだれもが等しく享受できる社会環境を整えることが日常生活や地域におけるさまざまな課題を解決していくために不可欠だと考えています。また、2025年国スポ障スポ開催に向けて手話・要約ボランティア人材の育成や、横断的なネットワーキングに全力で取り組んでいく所存です。ご来所時には利用者の

【新規採用】

滋賀県立聴覚障害者センター 吉牟田 真由子

これまでの社会経験を生かして、お役に立ちたいと考えています。何よりセンターを利用される方々に早く顔を覚えていただけるよう、誠心誠意をもって職務に取り組みたいと思います。よろしくお願いいたします。



滋賀県立聴覚障害者センター 田中 睦

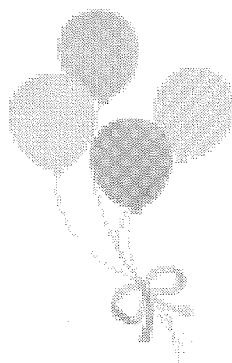
今年度より正規職員にて勤務することとなりました。これまで10年間滋賀県立聴覚障害者センターにて勤務しておりました経験を活かし、聴覚障害者福祉の向上のため精一杯頑張りますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



【退職】

滋賀県立聴覚障害者センター 有瀧 美栄

平成28年に入職してあつというまの7年間でした。たくさんの方々との出会いに感謝しています。たくさん失敗して冷や汗をかきましたが、春になってすっかり乾きました。片目で見てくださいました皆さん、これまで本当にありがとうございました。



「声」を是非ともお伺いしたいために、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせください。職員一同、皆さまのお役に立てるよう努力いたしますので、ご指導ご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

新規登録者の紹介

手話通訳者・要約筆記者

合格とま
うす
おめで
ごさい



◆手話通訳者◆



瀬井 香織さん

多くの方にご支援やご声援いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今後も自己研鑽に励みます。どうぞよろしくお願ひ致します。



辻野 かおるさん

優しく熱心にご指導や励ましを頂き有難うございます。多くを学び、必要とされる通訳者になる様頑張ります。宜しくお願ひします。



廣瀬 彩音さん

手話通訳者の一員となり活躍の場を広げられることに感謝しています。未熟ですが、より一層磨きをかけて活躍していきたいです。

◆要約筆記者◆



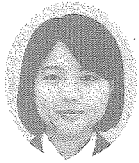
中尾 広美さん

合格の喜びと同時に、身が引き締まる思いです。ご指導いただいた講師の方々、関係者の皆様に深く感謝いたします。今後も少しでもより良い活動ができるよう日々努めてまいります。よろしくお願ひいたします。



田中 省作さん

今後の登録まで、かわり、ご支援くださったみなさまに、心よりお礼申し上げます。これまでに学んだことを活かし、役割を果たせるよう、努めてまいりたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



寺村 穂乃香さん

2024年度要約筆記新規登録者となりました。福祉に関わる者として自覚するとともに、一日も早くお役に立てるよう、知識と技術を磨いていきたいと考えています。よろしくお願ひいたします。

県民向け講座「はじめての手話教室」開催

「手話に興味があるが、連続手話講座に通えない」「ちいさな子どもを連れて学習できる場がない」そんな声に応えながら、広く全ての県民に啓発することを目的に、県民向け手話講座開催事業「はじめての手話教室」を開催しました。

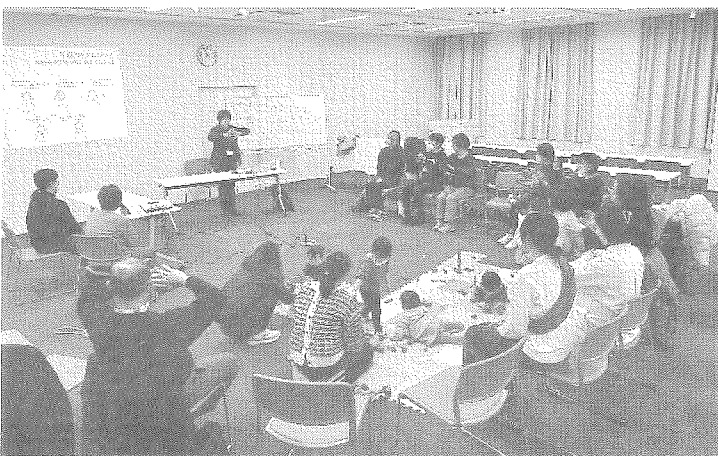
今回は、子育て世代のお父さん・お母さんに手話を知っていただく企画として、子育てサークル「ママサポートくさつ」に協力を依頼しました。子育てネットワークを活用して、ラインやインスタグラムなど、オンライン周知を活用。「こどもをつれて参加してください」とPRしたところ、たくさんの方が興味をもってラインやインスタグラムに反応してくださりました。

草津市と東近江市で2回、合わせて34人（うち、子ども13人）の参加がありました。会場は、おむつ替えや授乳ができる部屋を準備したり、おもちゃで安全に遊べる工夫などを施しました。

「小さい子どもがいるのであきらめていた」、「初めて生手話を見た」

と感動された方、「十数年ぶりに手話に出会いました」と話す方など、まだまだ啓発できるところがたくさんあると感じました。

滋賀県の手話言語普及事業はつづきます。自由に参加できる企画を考えますので、みなさんの参加をお待ちしています。



聴覚障害者センターで行っている相談紹介

新年度になったということ、当センターで行っている相談についてあらためてみなさまにご紹介したいと思います。

●きこえの相談

テレビの音が大きくなった、会話が聞き取りにくくなったなど、きこえに関する相談、補聴器に関する相談、生活上の不便や悩みがある方はご相談ください。言語聴覚士がきこえに関する相談をお受けします。

開催は月に1回。滋賀県立聴覚障害者センターやその他会場で行います。

4月の開催日は4月20日（土）です。

●生活相談

きこえない・きこえにくいご本人やその家族、関係者などを対象に生活相談を実施しています。日常生活で困っていることや仕事に関する相談、福祉制度に関する相談などセンターの相談員がお話をお聞きします。受付は随時行っており、お気軽にお申込みください。

●IT相談

きこえない・きこえにくい方対象に、スマホ・パソコン・インターネット等についてわからないことを手

話、筆談で相談できます。聴覚障害者のためのIT相談員がサポートしますので、お気軽にご相談ください。受付は随時行っているため、お気軽にお申込みください。

大津市聴覚障害者

相談員設置事業

●大津市聴こえの出張相談

月に1回、認定補聴器店の技能士に協力を頂き、各地域で聞こえと補聴器に関する相談を実施しています。家族や友人との会話が聞き取りづらい、テレビで何を言っているのか分からない、などの聞こえづらさを感じたことはありませんか？ 病院に行ったほうがいいのか？ 補聴器ってたくさんあるけどどれがいいんだろう？ とお悩みがある方は1度相談にいらしてみたいかがですか。おおつ広報や地域の支所にチラシがありますので1度お問合せください。

●個別相談

日常生活の中での困りごとなど、様々な相談をお受けしています。相談したいけどどこに行ったらいいのかわからないときは1度ご相談を。センターへ来ていただく、メールしていただく、ご自宅へ訪問させていただくことも可能です。内容に合わせて、関係機関への連携も行います。

以上のように様々な相談を行っています。予約が必要なものもありますので、まずは1度当センターへお問い合わせください。お待ちしております。

日曜教室事業「青年講座」

つながりを広げて

楽しく社会生活！

■開催のねらい

3月23日（土）午後1時から、近江八幡にある男女共同参画センターにて青年講座を開催しました。この企画は昨年度に引き続いて2回目です。参加はろうあ協会青年部、地域の難聴学級や聾話学校に通う小学校5年生以上の児童・保護者です。テーマは「聴覚障害青年のネットワークの拡充

と、聴覚障害学生に将来の自己像をイメージしてもらう」です。より安定した就労・社会生活を目指して、自分の将来像が持てることを目指しています。

■参加者

当日の参加者は保護者6名、学生3名、青年部5名でした。第一部・森田英昭さんの講演は、自身の生い立ちや就労生活について触れ、聴覚障害の受け止めや周囲の人とのかかわり方をお話しいただきました。第二部はグループに分かれて話し合いました。青年部会員にはロールモデルとして、現在の職場のこと、学校時代のことなどを話していただきました。保護者さんは、人工内耳が生活にどう役立っているのかも知りたいテーマでした。もう一つのグループは学生と青年部が集まりました。青年部のお兄さんたちに色んな話を聞いてもらえる場は貴重だったと思います。

■この日の大切なこと

手話を学びたいというアンケート回答がありました。聴覚障害の子どもたちが手話を学ぶ場はありません。これは次の課題として、昨年企画した「手話サークルで学ぶ大学生と子どもの交流」を是非再開したいと思いました。

聴覚障害児及び保護者サポート事業
「のびのびサロン」

子育ての経験をきかせて

1月20日(土) 午後1時30分から3時30分まで、聴覚障害者センターにて、きこえないお子さんを育てている保護者3名にご登壇いただき、子育ての経験談をお話いただきました。参加者は9家族。一緒に来たお子さん4名(小学2年生から6年生)は保育エリアで仲良く遊ぶ様子が見られました。

■ミニ講演

初めに大森真佐子さんのミニ講演。お話の前半はご自身が聞こえないお兄さんと一緒に通った聾学校の様子、お兄さんのお友達との関わり、またご自身の色々な聞こえないお友達との関わり、大きな転機となった竹沢清先生との学校生活などについてでした。後半は現在のご家族について、聞こえないお子さん3名が生き生きと社会生活を送っている様子が話されました。大森さんのミニ講演は成功例というよりは、どのように子どもへの気持ちを尊重しながら生活していくかという心構えが学べるお話でした。

■リレートーク

後半のリレートークは、お子さんが聾話学校に通う林美和子さんと、卒業されたばかりの高田真理子さんにご登壇いただきました。わが子の聞こえに気づいたときの思いや、人工内耳を選択した理由、お子さんの学校生活などについてお話しいただきました。日々の生活の様子をお話しいただくなかでメッセージとなったのが、「分からない子の『わからない』が分かる親になること」でした。子どもにとって「分かる」体験が「なぜ?」につながる、「知りたい」に拡がるということを学ばせていただいた会となりました。



ミニ講演の大森さん

2023年度 登録意思
疎通支援者(手話通訳者)
研修会を開催しました

意思疎通支援者(手話通訳者・要約筆記者)は、滋賀県への登録と同時に、自らの技術と知識の向上に努めることが義務づけられ、研修会に参加することが責務となります。研修を企画運用する滋賀県聴覚障害福祉協会では、研修の柱を「健康」「知識」「技術」「倫理」の4つとし、1年に複数回開催しています。

今回は、3月9日(土)「講義の読み取り技術」の学習を行いました。読み取り通訳とは、ろう者が話す(講義する)手話を、日本語音声にかえて通訳する事です。通訳者個人が持つ日本語の語彙を駆使して、内容や対象者に適した日本語を瞬時に選択する技術が求められる場面でもあります。

学習会では6人のグループに分かれ、講義「手話の基礎知識」の一部を教材に、「身振り」と「手話」の違いをどのように読み取るか、熱心な意見交換が交わされました。受講者からは、読み取り通訳技術の継続学習を求める声が多くありました。自由な意見交換で得た気づきや学びは、今後の通訳活動に活かされていくことでしょう。

タツノオトシゴ

大相撲春場所千秋楽で尊富士たけるふじが新入幕の初場所でみごと優勝しました。実に110年ぶりの快拳だそうです。若干24歳。前日の取り組みで足首を負傷し車いすで退場したのに、軽いサポーターのようなものを着ただけで出場しました。親方に強く望んだそうです。朝日新聞には、日頃から「よく聞く」若者だったとエピソードが載っていました。スランプでも先生や先輩のアドバイスを受け、腐らず地道に努力していたと。千秋楽、勝負の世界だから痛い素振りは見せませんでした。翻って我が身を振り返ると、忙しくて大変なのは私ばかりとしんどがっています。新しい春に向けて、たとえ3日坊主でも、思いだしては、前向きになれと自分に言おうと思います。

(あ)